

学 年 6年2組

氏 名 勝又心結

住 所 北佐久郡軽井沢町長倉3734

電 話 0267-45-5189

学校名 軽井沢中部小学校

メールアドレス 中山 nakayama-atsushi@sakuedu.or.jp

題 名

乾電池の歴史

本 文 20行程度

皆さんが当たり前のように使っている電気ですが、私達の身の回りには電気のもがたくさんあります。また、私たちの知らないところでも電気はたくさん使われています。ところで、皆さんは乾電池を知っていますか？おそらく知らない人はいないと思います。皆さんは乾電池を作った人をご存知ですか。これは知らない人のほうが多いと思います。乾電池を作った人は、屋井先蔵という人です。乾電池ができたのは、1887年（明治20年）です。その乾電池は屋井乾電池と呼ばれてました。ですが、今皆さんが知っている乾電池とは少し姿が違い物によりますが、今の辞典ほどの大きさになります。ただ、その時代には、まだ電気製品が国内にありませんでした。そのため、当時は注目度が低く売れ行きも不振でした。読んでいる人の1人は思ったであろうこの時代の乾電池がどうやって今まで継がれてきたのか、それは1893年（明治26年）東京帝国大学理学部のシカゴ万博に出品した地震計に屋井乾電池が使用されたことがきっかけです。さて、ここでなぜ屋井先蔵は乾電池を作ろうと思ったのか、それは、屋井先蔵が大学の2度目の受験の際に正確な時計が周囲に一つもなかったからです。つまり、受験に遅刻し受験ができなかったのです。当時の時計は手動のゼンマイ式が主流で、街中で目にできる時計が示す時刻がバラバラだったのです。屋井先蔵はこのときの経験が引き金となって、電気で常に正確に時を刻む「連続電気時計」の開発に、情熱を注ぐようになったのです。さて、話は戻って乾電池を作ったのは1887年です。屋井乾電池が特許を得たのは1894年です。なぜ7年も特許をとることができなかったのでしょうか。それは、屋井先蔵個人の問題になりますが、屋井先蔵のお金がなかったからです。特許を取るには高額なお金がかかったのです。そのため、高いお金を払ってあまり売れなかったらどうしようとそのような感じだったのでしよう。屋井乾電池がなかったら…なんて考えたくないですね。それほど、この人屋井先蔵さんの研究は大事なものだったのでね。